

クルマを超えて、クルマを楽しむ。
Classic Meets Modern and Future

AUTOMOBILE COUNCIL 2025

主催者特別展示コーナー 「ニッサンとイタリアンデザインのクリエイション」 日産車 4 台を展示

AUTOMOBILE COUNCIL 実行委員会

4月11日（金）から13日（日）の3日間、千葉県千葉市幕張メッセで開催する「AUTOMOBILE COUNCIL 2025」。AUTOMOBILE COUNCIL 実行委員会では、このほど、主催者特別展示コーナーを設置することとし、「ニッサンとイタリアンデザインのクリエイション」をテーマに、ジョバンニ・ミケロッティ、ピニンファリーナ、ジョルジェット・ジウジアーロ、そして、イタルデザインが携わった、イタリアンデザインの4台を展示します。

1960 プリンス・スカイライン・スポーツ

本格的なモータリゼーション普及前夜から、日本の自動車界はデザイン先進国であるイタリアのカロッツェリアにボディの造形を依頼した。その先陣を切ったのが1960年のトリノショーでデビューしたこのプリンス・スカイライン・スポーツである。デザイナーは天才の呼び声高かったジョバンニ・ミケロッティ。グロリアのエンジン/シャシーを利用し流麗な高級スポーツクーペに仕上げた。



1964 ダットサン・ブルーバード1200デラックス

日本で乗用車の保有台数が100万台を突破した1963(昭和38)年、ブルーバードは2代目の410型に進化した。当時先進的だったモノコック構造をセドリックに続いて採用したボディデザインの原案を提供したのはピニンファリーナ。発売当初は1000ccと1200ccのエンジンを積んでいたが、後に1200SS(スポーツセダン)、1300SS、1600SSS(スーパースポーツセダン)を追加して、ブルーバードのスポーティなイメージを決定づけた。



1985 ニッサン・マーチ・コレット

日産を代表するコンパクトカーとして1981年東京モーターショーに展示されたコンセプトカー「NX-018」をベースに翌82年量産車として販売されたのがマーチ(海外名マイクラ)だった。スタイリングの原案はイタルデザイン・ジウジアーロ。飽きのこない時代性を捉えたスタイリングに、経済性の高い基本性能を組み合わせ、高い人気を得た。展示車のコ



レットは当時の最高級グレード「G」をベースにチェック柄のシートやフロント両席バニティミラーを備えたモデル。

2021 GT-R50 by Italdesign

2019年に「GT-R」が、2018年に「イタルデザイン」が50周年を迎えることを記念して誕生したプロトタイプ。開発と設計、製造をイタルデザインが、内外装デザインは日産デザインヨーロッパと同アメリカが担当。720psを絞り出すエンジンは日産テクニカルセンターとNISMOが共同開発するという、まさに総力を挙げる体制で完成させた。2018年の英国「グッドウ



ッド・フェスティバル・オブ・スピード」で世界初公開。その後オーナーの好みに合わせて1台1台テーラーメイドされた50台がイタルデザインの手で仕立てられ、好事家の手に渡った。

一般問合せ AUTOMOBILE COUNCIL 2025事務局

Tel : 03-6380-1011 e-mail info@automobile-council.com

報道関係からの問い合わせ先 AUTOMOBILE COUNCIL 2025 広報事務局

Tel : 090-8940-1683 e-mail press@automobile-council.com